

#### 4. 議題

今回の番組審議委員会は、3月5日（日）午前10時30分～放送の朗読劇「金森長近公ものがたり」を聴取して審議に入った。（番組冒頭と最後に宮ノ下浩一ナビゲーターの説明有り）

★番組趣旨：令和6年に生誕500年を迎える飛騨高山の初代藩主・金森長近公は、4歳から18歳までの青年期を、現在の滋賀県守山市である、近江の国・金ヶ森（かねがもり）で過ごし、城下町づくりの基礎となる多くのことを学びながら成長して、現在の飛騨高山発展の礎を築いた。

高山市出身で、滋賀県守山市在住の青谷正史（あおたに・まさし）さんが書かれた「金森長近公ものがたり」の朗読劇を通じて守山市と高山市の市民に、より広く長近公の遺徳と業績を理解していただき、両市の更なる交流発展の縁としたい。併せて、今回の収録に現役の高校生放送部員が参加して、若い世代にも飛騨の歴史に興味を持っていただきたい。

この物語は、守山市の「守山の歴史を考える会」により、郷土にゆかりのある歴史上の人物を題材にして、小学生高学年向けに発刊した「守山昔ばなし」の中に収録されたもの。

朗読者は、青谷さんの同級生で「飛騨のかたりべ いろりばた」の諸屋小夜子（もろや・さよこ）さん、同じく会員の岡野豊（おかの・ゆたか）さん、原作者の青谷正史（あおたに・まさし）さん、青谷さんの斐太高校の後輩・古守恵子（ふるもり・けいこ）さん、古守さんの友人・中川裕年（なかがわ・ひろとし）さん、そして今回、斐太高校放送部の小川陽（おがわ・ひなた）さん、門春佳（かど・はるか）さん、中井鈴太（なかい・りょうた）さん、中村日彩（なかむら・ひいろ）さん、丸山美紀（まるやま・みのり）さんにも加わって頂いた。

#### 5. 議題内容

会 社 側：	審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。
大萱委員長：	只今、聴取した番組についてでも結構だし、普段聴いている番組等で感じていることでも結構なので、皆さんから意見を頂戴したい。
藤垣委員：	「金森長近公ものがたり」について、歴史ものを詳しく知りたい方が多いし、高山市役所（藤垣委員は高山市役所の職員）にも問い合わせがよくあるが、そのような視点で聴くと、この番組は面白いと思った。また、物語に入る前に宮ノ下ナビゲーターが最初と最後に解説していて、素人の方にも歴史についてわかりやすく聴いてもらえるのではないと思う。朗読劇についても語り部の諸屋さんを始め、皆さん上手くしゃべっていたので、市役所の職員も見習いたいと感じた。ただ、全体的には前編、後編の1回の完結での構成だったが話が長いと感じた。

	<p>番組の流れで1回の完結のほうがよい場合もあるが、できれば2回に分けて放送してもよいと思った。それと、登場人物が多く関わりがわからなくなったしまったので、その辺り工夫することができるとよいと思った。</p>
大萱委員長：	1回の完結の放送だったが、再放送もしたのか？
会 社 側：	関係者に聴いてもらいたい思いから、とりあえず「試験的」に、1月23日・日曜日の夜7時から放送した。それ以降は時間帯を変えて再放送もした。
松川委員：	「金森長近公ものがたり」について、続きを聴いてみたいと思った。金森長近から金森可重に、時代が移り変わるストーリーがあると思うが、続きも聴けると面白いと思った。確か「めでた」（飛騨の祝い唄）は、昔、木材を溜めていた「みなと」と呼ばれた場所で、人夫達が酒を酌み交わすときに唄われ始め、金森可重の屋敷を完成させた際、棟梁が披露した唄だと思うが、その「めでた」についてのストーリーもあるとよいと思った。番組の構成については、解説を最後に言っていたが、締めや結びの言葉は最後に言ったほうがよいのか？
会 社 側：	締めや結びの言葉は最後に言うようにしている。原稿は青谷さんから送られたものを使い、冒頭と結びの部分も同じように青谷さんからのものを使い紹介している。普段は滋賀県の守山市在住なので、メールで打ち合わせをしながら進めた結果、このような構成にしている。
大萱委員長：	確かに「続編」があると面白い企画かなと思う。
原 委 員：	「金森長近公ものがたり」は、自宅のラジオで一部聴いたのだが、このような番組はあってもよいと思った。委員長や、松川委員同様、「続編」みたいなものがあれば、もっと詳しく知りたいと思った。ただ、時間枠はもう少し短く、1回目、2回目と続くものにしたほうがよいかと思う。また、語り部の女性（諸屋さん）は聴きやすく抑揚もある人なので、わかりやすかったが、前半の男性の話し方は抑揚がなく単調だったので、確認しながら聴いていたら内容がわからなくなった。高校生の話し方も早口で聴きにくかった。機会があれば金森長近は、来年、生誕500年を迎えるので、もう少し突っ込んだ内容があってもよいと思う。今後も期待したい。
大萱委員長：	約4年前に自身「ラジオドラマ」を担当したが、大変だったことを思い

	出した。「金森長近公ものがたり」は、そんなに音楽を使っているわけでは無いし、効果音が出てくるわけでも無いけれども、1つの本の中の「朗読劇」として成り立つと感じた。大変だと思うが、色々な物語を取り上げて欲しいと思う。質問だが、守山市とか福井県大野市とかコミュニティエフエム局は無いのか？
会 社 側：	守山市、大野市にコミュニティFM局は無い。
大萱委員長：	コミュニティFM局があれば行政にもバックアップしてもらったり、エフエム同志の交流ができれば面白いかなと思う。この朗読劇は守山市で流れるのか？
会 社 側：	CDにして、恐らく学校とかに配るようなことを青谷さんから聞いている。これは、守山市民からみた物語になっていて、高山市民からみた金森長近像とは違う視点で聴いてもらえると思う。また、収録はすべて別録音で編集して放送したので大変だった。また登場人物もたくさんいて、1人1役で行ければイメージが湧くところだが、1人で何役も担当していたので、その辺り意見でも指摘があったが、わかりにくくなってしまったと思う。今後の課題だと感じている。
大萱委員長：	大変だったと思う。別録音の場合、全員が揃っていないと全体の流れの中の抑揚が違ったりするので大変さがよくわかる。しかし、プロ、アマチュア問わず、ナレーター、朗読など、抑揚をつけながら声を出すことを仕事にしている方や趣味にしている方は、いろいろなことに取り組んでいるしいいことだと思う。またそれをエフエムの番組で放送することは、広がりをもてて本当によいことだと思う。今後、簡単に「続編」をやることは難しいと思うが、少しずつ取り組んでもらいたい。他に意見は無いか？
原 委 員：	「金森長近公ものがたり」について、斐太高校（地元の高校）の放送部の生徒は何人参加したのか？
会 社 側：	5人が参加して順番に収録した。
原 委 員：	今、斐太高校の放送部はコンクールで賞を取らなかったか？そう言うことでも取り上げたらどうか？
会 社 側：	少し前、当局の制作会議で、斐太高校の放送部で番組をエフエムで放送できないかという案が出て、斐太高校に相談しようと思ったが、制

	作担当が新型コロナの濃厚接触者になってしまい、しばらく出社できず、また、タイミングも卒業式に近い時期だったので、今年度の実現はできなかった。また年度明けにも相談に行きたいと思う。
原 委 員 :	時間枠を設けて、斐太高校放送部の番組を放送して欲しいと思う。
会 社 側 :	斐太高校放送部もだが、他の高校の生徒や若い方に、番組などやって頂けないか考えている。ちなみに、本日の夕方には国府中学校の生徒2名が、生ゲスト出演してもらおう予定だ。今回は「ゲスト出演」という扱いだが、いずれは、ちょっとした番組も持ってもらいたい考えだ。
大萱委員長 :	いいと思う。少しでもエフエムに出演することで、興味をもってもらうことは大事だと思うし、自分の仲間が出演していることで、若いリスナーも増えるかもしれない。いい方向でやってもらえればよいと思う。あとは会社側からの報告は無いか？高山祭のサテライト放送も予定通り放送するのか？
会 社 側 :	その通りだ。あと選挙に関しては、高山市議会議員選挙、岐阜県議会議員選挙の開票速報を放送する予定だ。陣営のインタビューは、県議会議員は人数が少ないので可能かもしれないが、市議会議員選挙は人数が多いので難しいと思う。候補者の名前と票数のみの淡々とした放送になると思う。
大萱委員長 :	夜遅い時間からの放送だが、しっかり伝えて欲しいと思う。他に意見はないようなので、以上で終わりたいと思う。
会 社 側 :	本日も貴重な意見を頂き大変ありがたい。会社に持ち帰り、番組向上に繋げたいと思う。

6. 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表 内容、方法年月日

令和5年3月14日（火）番組審議委員会の席上で説明

7. その他の参考事項

次回開催日：令和5年5月下旬

開催場所：飛騨地域地場産業振興センター（予定）